

あわくら 歴史街道

清水山 天徳寺
(その2)

天徳寺は往昔、京都聖護院を本山とする修験宗の寺として明治6年頃迄続いていました。江戸時代以前は檀家があったようですが、幕府の政策によって修験宗は檀家が持てないことになり、更に明治になってから修験宗は廃止となり、真言、天台の両宗に所属か、神官又は帰農することになりましたが、峯入修行の指導者として山伏に関しては存続しています。この様な事態から天徳寺も真言宗に改宗された経緯があります。

修験宗時代の住職は、主に信仰の先達としてまた病人の回復等を祈願する祈祷師(寺)であったようです。

天徳寺最大のお祭りは、秋の取入れも終わった11月に大護摩供養が行われていました。当日午前中は本堂で内護摩が焚かれ、午後は野井張山に設けられた護摩壇で、1m30cm位の生の丸太木を井形状に組み、これを4段に積み上げ、その中に桧の生枝を一杯積み上げ、周囲からも枝をさし丸太が見えない位覆い、最下部には燃え易い杉葉が用意されます。護摩壇の周囲にはメ縄を張り巡らし、僧侶や修験者の祈願文が読み上げられて、愈々点火、読経の声、錫杖を振る音、燃える炎、天高く舞う煙、勇壮厳肅な供養は終わりますが、参拝する山伏姿の信者をはじめ一般の参拝者で大変賑わったものです。この護摩壇には明治27年に建立された役の行者の石像があって、往時を物語っています。

天徳寺の墓地内には、古墳、五輪塔、三光院、神官小因豊前守等約40体が鬱蒼とした古木の中に永い眠りとなっていますが、その中に石組みのような基壇の所から、明治の中頃掘出し保存されている法華経7巻があります。写経の年代は建保5年(1217)3月13日、写経した人は天徳寺の寛明智浄法師で1巻の長さ約4m幅約20cmで本村有形文化財に指定されています。

現在本堂内には数体の仏像が安置されていますが、住職不在となつてからは、農村型リゾートとして指定を受け、平成2年8月オープン、現在利用者の人気も良好で母屋の利用申し込みも増加の現状にあるとのことです。



天徳寺本堂内

人の動き

平成17年2月1日現在

●人口 1,730人(-9)	●1月中の移動
男 821人(+1)	出生 0人 死亡 1人
女 909人(-10)	転入 3人 転出 2人
●世帯数 547戸(-2)	

善意の窓

(村社会福祉協議会から)

平成17年1月16日~2月15日

おめでとうございます

猪之部 延東 義太 様 長女由加里様 結婚内祝

お大事にしてください

大 茅 井上 照美 様 本人 退院内祝

引 谷 乾 誠 様 本人 退院内祝

中土居 白岩 あやの様 本人 退院内祝

ご冥福をお祈りします

別 府 白旗 英夫 様 亡父芳佑様香典返し

知 社 清水 亨 様 亡母しづこ様香典返し

坂 根 田中 行雄 様 亡妻照代様香典返し

中土居 青木 清人 様 亡母ふさよ様香典返し

茂 津 建元 只美 様 亡母シズ子様香典返し

今月の村税

国民健康保険税 (第10期)

納期限：3月31日

納期限にご注意いただき、納付をお願いいたします。また、口座振替の場合は残高確認など、よろしくお願ひいたします。

お問い合わせ先：西栗倉村役場住民税務課

編集後記

真冬並みに寒い日や春を思わせるような暖かい日があり、三寒四温を肌で感じながら春へ向かっていることを実感する今日この頃です。しかし、ほかほか陽気とは反対に気が滅入ってくる人も少なくないのではないのでしょうか。そう、「花粉症」の季節の到来です。記事にも掲載していますが、今年の花粉は例年になく量が飛ぶそうです。テレビや雑誌等で目にする事も多いと思いますが、花粉症で毎年悩んでおられる方々、頑張つてこのつらい時期を乗り越えましょう。